

no.	保管料算出方法	計算方法	計算例	メリット	デメリット	用途
1	一定坪数に単価を設定する方法	坪単価×坪数	坪単価3,500×70坪=¥245,000	保管料が月額一定なので、保管料計算が容易	坪数の算出は感覚に委ねられるところがあること。それ故に荷主側、倉庫側で意見が食い違うことがある (高く積み上げれば坪数は抑えられるが危険で作業効率が下がる、低く積み上げれば坪数は増え作業効率は上がる)。物量が一定坪数を大幅に超える時または減る時など、坪数の再算出において荷主側、倉庫側がストレスを感じてしまうことがある。	段ボールケースを開梱して1点ずつ商品を取り出し他の商品と一緒に再梱包する必要があるような商材、多品種小ロット商材、段ボールケースに入れられていない商材、年間の物量が大きく変動しない商材
2	個別に単価設定する方法	保管単価×保管積数(3期制)×商品数	1ケース50円×保管積数1,500×3品種=¥225,000	物量の増減によって自動的に保管料が計算される。一商品ずつ単価を決めるので、坪数計算のような感覚的な部分がなく、計算できちりと算出できるので、荷主側、倉庫側にストレスがない。荷主側はコスト・原価計算を一商品ずつ正確に行うことが可能。倉庫側は、保管方法に制約がなく、倉庫側の都合で高く積み上げようが低く並べ保管しようが自由である。	荷主側は、一商品ずつ単価の確認する必要がある	段ボールケース単位で荷動きする商材、物量が年間通して大きく変動する商材